

カトウ・サイン工業株式会社 代表取締役

かとう たかゆき  
加藤 貴之氏

## 看板・サインを通して新潟の街の 活性化と企業のイメージづくりに貢献



### PROFILE

1973年生まれ、新潟市出身。1998年新潟大学経済学部を卒業し、プロメディア新潟に入社。報道ディレクター、番組制作・CM製作ディレクターなどを務める。2002年 カトウ・サイン工業に入社。2003年専務取締役就任。2015年 代表取締役就任。2021年 KSプランニング設立。その他、2003年から2013年まで新潟青年会議所の各種役職を歴任。2013年 新潟県中小企業青年中央会 会長(～2014)、2017年 新潟県広告美術業協同組合 理事(～現在)などを務める。

新潟の街中で目にするさまざまな看板を製作・設置しているカトウ・サイン工業は、112年の歴史を持つ屋外広告の老舗企業。安全・安心な看板を実現する知識と技術力を追求するとともに、社員の待遇改善や人材育成にも力を入れる加藤社長に、お話を伺いました。



カトウ・サイン工業株式会社  
〒950-0871  
新潟市東区山木戸8丁目4-18  
TEL:025-274-3333  
<https://katosign.com>



会社の規模は小さくても、皆さまに  
安心して選んでいただけるような  
施工技術を持つ会社を目指してい  
きたいと思っています

### 企画から施工、メンテナンスまで 一貫体制による看板製作が強み

カトウ・サイン工業は、もともと仏壇職人であり、木彫りの看板を得意としていた加藤岩松氏が1914年、新潟市東堀通で創業。以来、112年に渡り看板製作設置業を営んできた。「当社は看板の企画から製作、施工、取付、点検、メンテナンスまで一貫体制で行えることが強みです」と加藤社長。また、屋外の看板は安全性が求められることから、法令に基づく総合的な知識を持つ屋外広告士など、さまざまな資格を持つ社員が在籍している。「昔からよく言われるのは、当社の看板は丈夫で壊れないということ。2～3年で色褪せるような看板だと、その店や企業も色褪せて見えすよね。我々の仕事は、店や企業のイメージを作ることにも繋がっていると思います」。

### 職場環境の整備や社員の待遇改善、 自己成長を促す取組を実施

長い年月の中では、経営状況の悪化による人員削減など、厳しい選択もしてきた同社。2015年に会社を引き継いだ加藤社長は、「社員の待遇改善に努めたい」との思いから、真っ先に社屋の移転に取り組んだ。「前社屋は建物も古く、作業効率も悪かったので、まずは社員が働きがいのある環境を作ることが必要でした。近年は特に社員に何を還元できるか、どうすれば生きがいを持って長く当社で働いてもらえるかを重点的に考えています」。

また、人材育成の面では資格取得補助制度や資格手当を導入。年度始めには、社員に自身のスキ



関屋自動車学校様



トッパ電工様

お客様の要望を丁寧に聞き、プロの目線で  
イメージや目的に沿った看板を製作している。

ルアップに繋がる目標を設定させるなど、自己成長を促す取組も行っている。

### 業界全体でイメージ戦略を図り 次世代を担う人材の確保へ

同社は新潟商工会議所が実行委員会となっている新潟まつりに協力し、水上みこし渡御の龍飾りの製作・施工を行っている。「この龍飾りは数十年当社が担当していると聞いています。また、私個人では商工会議所の新年祝賀会に毎年参加していますが、新年の挨拶回りをしなくても、ここで多くの方々に会えますし、県知事や市長の今年の方針を聞ける貴重な機会にもなっているのがありがたいです」。

今後については、「施工に関しては、新しい技術を取り入れながら進化させ、人を育てていくことが必要です。AIや機械化が進んでも、最終的な看板の設置は人が状況を見て判断し、人の手で行わなければいけないからです。そのためには人材確保が急務。看板屋に対するイメージ戦略を業界全体で進め、“看板屋になりたい”という若者を増やしていきたいと思います」と加藤社長。次世代への継承に力を入れながら、これからも看板を通して街や企業の発展に貢献していく。



新潟まつりを盛り上げる、水上みこし渡御。御座船に取り付ける迫力ある龍飾りを毎年施工している。



看板の設置後も点検やメンテナンスを行い、安全・安心をサポート。

ヒロセの賃貸様